

海外の乾燥地で 文化に触れ、暮らし、学び 未来を拓く



★MSプログラムとは

国際連合大学(カナダ)、中国科学院寒区旱区環境工学研究所(中国)、乾燥地域研究所(チュニジア)、チュニジア国立農業研究所(チュニジア)、国際乾燥地農業研究センター(シリア)、国連砂漠化対処条約地球機構(イタリア)、パリー地中海農学研究所(イタリア)、鳥取大学(日本)の8機関で共同運営されている「乾燥地における統合的管理に関する共同修士号プログラム」(Joint Master's Degree Programme in Integrated Management in Drylands)の略称。乾燥地の資源を適切に利用するため、乾燥地における統合的管理法に関する国際的視野を若手研究者に提供することを目的とする。受講生及び教授陣は多国籍である。MSプログラムは、コースワーク～研究計画作成～フィールドリサーチ～論文作成をセットで企画し、参加者は各節目でプログラム委員会のレビューを受けることにより、一定の質を保証している。修了者には国際連合大学から修了証書が授与される。

MSプログラムの概要は国連大学ホームページから→<http://www.inweh.unu.edu/drylands/MS.htm>

「若手研究者国際・トレーニング・プログラム」とは

若手研究者国際・トレーニング・プログラム(IITP)は、日本学術振興会が平成19年度より実施している事業で、鳥取大学は平成20年度から5年間の実施予定で採択されました。

鳥取大学が採択された「乾燥地における統合的資源管理のための人材育成」プログラムの目的は、鳥取大学で最も実績のある乾燥地研究分野において、国際的通用性のある若手研究者、すなわち海外の大学あるいは国連機関、国際機関等、世界の大学や研究機関の職責にふさわしいミッションを十分にこなすなど、国際的に活躍する人材を養成することにあります。

具体的には、毎年5名程度の学生(主に修士課程学生)が最長1年間海外の研究機関に滞在し、イタリア、チュニジア、シリア、中国等で、多国籍教授陣による乾燥地に関する広範な内容の講義を受講し、乾燥地をフィールドとした研究を行うものです。

本プログラムは国際連合大学等8機関の共同による共同修士号プログラム(★MSプログラム)を活用するもので、講義や研究指導は全て英語で行われ、多国籍の学生と生活を共にしながら、共に学び、研究することにより、豊かな国際感覚と語学力を磨くことができます。

卒業後は、JICAや国際コンサルタント企業等に就職、あるいは博士課程で更に研鑽を積む学生が多く、プログラム修了生はグローバルな舞台上で活躍中です。

私たちと一緒に、乾燥地の不思議、砂漠化の問題について、現場で学んでみませんか。



IITP 主担当教員
やまもと しろ
山本 定博 (農学部 教授)